

南のひと 40

写真・文=水野暁子

八重山で共に暮らす島人を撮影したシリーズ。
暮らしの中から見つめる被写体に共感と敬意を
込めて撮影している。



竹富島出身の^{まえもとりゅういち}前本隆一さんは、歩く島辞典のような人。島の薬草について聞きに行けば、「これを貸してあげるよ」と、長い年月をかけて調べあげてきた薬草の手作り資料冊子を手渡してくれる。世界中から集まってくる言語学者たちは、竹富島の言葉「テードゥンムニ」を習いに隆一さんを訪ねる。お祭りでは昔から伝え継がれてきたお話を披露し、音程をつかむのが非常に難しい古謡やユンタなどの島の唄を難なく唄いこなす。島の伝統的な穀物にも詳しく、若い世代へとその知識と知恵を伝授している。

島の役員になった私の夫が、お祭りなどで来客をお迎えする際には、親の代わりのように挨拶を行い、見守り、助言をしてくれる。

隆一さんは、真面目な顔をしてお茶目な冗談を言ったりは場を和ませたり、厳しい口調で注意を促し場に緊張感を与えたりする。

そんな隆一さんの家を訪ねると、いつも何かしらの調べ物をしていたり、来客の相手をしていたり、常に「今」を現役で生きている。

「好きなことをして生きる」とか、「得意なことを活かした生き方」などが称賛される昨今、隆一さんを見ていると、「生涯現役で自分を生きる」というのは、こういうことなのかな、と思う。

隆一さんの暮らしの中には、生涯をかけて手繰り寄せてきた島の記憶が詰まっている。

水野暁子 みずのあきこ

1973年千葉県に生まれる。1986年に家族とアメリカへ渡る。1996年 School of Visual Arts (New York) を卒業。1999年に竹富島に移住。現在子育てをしながら撮影活動中。

●島人へのインタビューをまとめて紹介している YouTube チャンネル「八重山ライブラリー」も。



Akiko Mizuno Photography



八重山ライブラリー